



書式ルール

SANtricity commands

NetApp
June 17, 2025

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/e-series-cli/get-started/formatting-commands.html> on June 17, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

書式ルール	1
SANtricity CLIコマンドのフォーマットルール	1
CLI形式のルール	1
SANtricity CLI スクリプトコマンドのフォーマットルール	2
Windows PowerShell における SANtricity CLI コマンドのフォーマット規則	4

書式ルール

SANtricity CLIコマンドのフォーマットルール

入力した値または名前に基づいて、CLIコマンドには特定の形式ルールが適用されます。

CLI形式のルール

Windows、Linux、またはSolarisオペレーティングシステムでCLIコマンドおよびスクリプトコマンドを実行する場合は、名前またはラベルの一部として使用される二重引用符（"）に特別な考慮が必要です。

二重引用符（"）が名前または値の一部である場合は、各二重引用符の前にバックスラッシュ（\）を挿入する必要があります。

例：

```
-c "set storageArray userLabel=\"Engineering\";"
```

この例では、「"Engineering"」がストレージアレイ名です。

2つ目の例は次のとおりです。

```
-n \"My\"_Array
```

この例では、「My」_Arrayはストレージアレイの名前です。

二重引用符（"）は、スクリプトコマンド内で文字列（文字列リテラルとも呼ばれます）の一部として使用することはできません。たとえば、次の文字列を入力してストレージアレイ名を「"Finance" Array」に設定することはできません。

```
-c "set storageArray userLabel=\"\"Finance\"Array\";"
```

Windowsオペレーティングシステムでは、名前の前後に二重引用符（"）を使用しない場合は、特殊なスクリプト文字の前にそれぞれキャレット（{キャレット}）を挿入する必要があります。特殊文字には、{キャレット}、|、<、>を使用できます。

端末「-n」、「-o」、「-f」、「-p」とともに使用する場合は、特殊なスクリプト文字の前にそれぞれキャレットを挿入します。たとえば、ストレージアレイ「CLI>CLIENT」を指定するには、次の文字列を入力します。

```
-n CLI^>CLIENT
```

スクリプトコマンドの文字列リテラルで使用する場合は、特殊なスクリプト文字の前にそれぞれキャレット（{キャレット}）を1つずつ挿入します。たとえば、ストレージアレイの名前を「FINANCE_|_PAYROLL」に

変更するには、次の文字列を入力します。

```
-c "set storageArray userLabel=\"FINANCE_^\|^_PAYROLL\";"
```

Windows OSを使用する環境でSMcliコマンドをコマンドプロンプトから実行する場合、入力ファイルまたは出力ファイルのファイルパス名にエスケープ文字としてバックスラッシュ（「\」）を追加する必要があります。ロールベースアクセス管理ユーザを指定する-uオプションを提供して、セキュアなhttpsモードでSMcliを使用する場合は、バックスラッシュ（「\」）を追加する必要があります。* 例：*

```
C:\\\\dir\\\\subdir\\\\filename
```

SANtricity CLI スクリプトコマンドのフォーマットルール

特定のスクリプトコマンドに固有の構文については、各スクリプトコマンド概要 の最後にある「メモ」セクションで説明しています。

大文字と小文字の区別--スクリプトコマンドでは大文字と小文字は区別されません。スクリプトコマンドは、小文字、大文字、または大文字と小文字を混在させて入力できます。（次のコマンドの説明では、コマンド名を読みやすくし、コマンドの目的を理解しやすくするために、大文字と小文字を混在させています）。

*spaces *--コマンドの説明に示されているように、スクリプトコマンドにスペースを入力する必要があります。

角括弧--角括弧は、次の2つの方法で使用されます。

- コマンド構文の一部として。
- パラメータがオプションであることを示すため。パラメータ値を角かっこで囲む必要があるかどうかは、各パラメータの概要 で説明されています。
- parentheses*-コマンド構文に表示されるかっこは、パラメータの特定の選択肢を囲みます。つまり、パラメータを使用する場合は、丸かっこで囲まれた値のいずれかを入力する必要があります。一般的に、スクリプトコマンドには丸かっこは含めません。ただし、場合によっては、リストを入力するときに、リストを丸かっこで囲む必要があります。該当するリストとしては、トレイIDの値やスロットIDの値のリストがあります。パラメータ値をかっこで囲む必要があるかどうかは、各パラメータの概要 で説明されています。

Vertical bars--スクリプトコマンド内の縦棒は""または""を示し'パラメータの有効な値を区切りますたとえば、コマンド概要 の'raidLevel'パラメータの構文は次のようにになります。

```
raidLevel=(0 | 1 | 3 | 5 | 6)
```

raidLevelパラメータを使用してRAIDレベル5を設定するには次の値を入力します

```
raidLevel=5
```

ドライブの場所--ドライブの場所を識別するCLIコマンドは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブの場所を特定するもう1つの方法は、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを0に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定することです。ID値はカンマで区切れます。ID値のセットを複数入力する場合は、値のセットをそれぞれスペースで区切れます。

CLIでドライブを指定する場合は2つの規則があります。使用する規則は各コマンドで指定されています。1つ目の規則では、等号と丸かっこを使用します。

```
drive=\(trayID,[drawerID,]slotID\)
```

2つ目の規則では、等号は使用せず、指定したドライブを角かっこで囲みます。

```
drive \[trayID,[drawerID,]slotID\]
```

丸かっこを使用する例をいくつか示します。

```
(1,1 1,2 1,3 1,4 2,1 2,2 2,3 2,4)
```

大容量ドライブトレイの場合は、次の例になります。

```
(1,1,1 1,2,2 1,3,3 1,4,4 2,1,1 2,2,2 2,3,3 2,4,4)
```

斜体の用語--コマンド内の斜体の用語は、指定する必要がある値または情報を示します。たとえば、次のような斜体の用語があるとします。

```
*numberOfDrives*
```

この場合は、斜体の用語を、スクリプトコマンドに含めるドライブの数に置き換えます。

セミコロン--スクリプトコマンドはセミコロン(;)で終了する必要がありますコマンドライン上またはスクリプトファイル内では、複数のスクリプトコマンドを入力できます。たとえば、次のスクリプトファイルでは、セミコロンを使用して各スクリプトコマンドが区切られています。

```
create volume drives=(0,2 0,3 1,4 1,5 2,6 2,7) raidLevel=5 userLabel="v1"
capacity=2gb owner=a;
create volume volumeGroup=2 userLabel="v2" capacity=1gb owner=b;
create volume volumeGroup=2 userLabel="v3" capacity=1gb owner=a;
```

```
create volume drives=(0,4 0,5 1,6 1,7 2,8 2,9) raidLevel=5 userLabel="v4"
capacity=2gb owner=b;
create volume volumeGroup=3 userLabel="v5" capacity=1gb owner=a;
create volume volumeGroup=3 userLabel="v6" capacity=1gb owner=b;
```

Windows PowerShell における SANtricity CLI コマンドのフォーマット規則

Windows PowerShellは、コマンドラインツールへのアクセスを提供する、対話型のスクリプティングシェルです。

Windows PowerShellは、Windowsコマンドプロンプトを改良したので、一連のコマンドとスクリプト機能が強化されています。CLIコマンドとスクリプトコマンドはすべてWindows PowerShellで実行できますが、Windows PowerShellには独自のフォーマット要件がいくつかあります。要件は次のとおりです。

- SMcliコマンドはすべてピリオドとスラッシュ (/) で開始
- SMcliのラッパーは.exe拡張子を持つ実行可能コマンド (SMcli.exe) として識別
- スクリプトコマンドは単一引用符 ("") で囲みます。
- 名前、ファイルパス、または値の一部である二重引用符の前にはバックスラッシュが必要です (\)。

次の例は、Windows PowerShellでストレージアレイ名を作成するCLIコマンドを示しています。スクリプトコマンドの区切り文字として単一引用符が使用されていることと、コマンド構文では「userLabel」として識別されているストレージアレイ名の前後にバックスラッシュと二重引用符があることを確認してください。

```
PS C:\...\StorageManager\client> ./SMcli.exe 123.45.67.88 123.45.67.89
-c 'set storageArray userLabel=\"Engineering\";'
```

次の例は、Windows PowerShellでプレミアム機能を有効にするCLIコマンドを示しています。プレミアム機能キーのファイルパスの前にバックスラッシュと二重引用符が使用されていることを確認してください。

```
PS C:\...\StorageManager\client> ./SMcli.exe 123.45.67.88 123.45.67.89
-c 'enable storageArray feature file=\"C:\licenseKey.bin\";'
```

上記の例では、大文字と小文字の両方が使用されています。これは、コマンドの形式を明確に示すためです。Windows PowerShellでは大文字と小文字が区別されないため、どちらを使用しても構いません。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。